

佐用町 子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査

【結果報告書 概要版】

平成 27 年3月

佐 用 町

目 次

I 調査の概要

1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 報告書の見方.....	1

II 調査結果

1 お子さんご家族の状況について.....	2
2 子どもの育ちをめぐる環境について.....	3
3 保護者の就労状況について.....	6
4 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）.....	8
5 地域の子育て支援事業の利用状況について.....	11
6 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童）.....	12
7 小学校就学後の放課後の過ごし方について（就学前児童）.....	13
8 病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）.....	14
9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用について.....	15
10 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について（就学前児童）.....	17
11 佐用町の子育て全般について.....	19

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「佐用町子ども・子育て支援事業計画」を策定するにあたり、保育ニーズや佐用町の子育て支援サービスの利用状況や利用意向、また、子育て世帯の生活実態、要望・意見などを把握することを目的に実施しました。

2 調査概要

- 調査地域： 佐用町全域
- 調査対象者： 就学前児童：平成26年1月現在、佐用町に住んでいる「就学前児童」をお持ちの世帯・保護者（就学前児童調査）
小学生児童：平成26年1月現在、佐用町に住んでいる「小学生児童」をお持ちの世帯・保護者（小学生児童調査）
- 抽出方法： 住民基本台帳より、就学前児童（0歳～5歳）の末子がいる全世帯507件、小学生（6歳～11歳）の末子がいる全世帯611件を抽出
- 調査期間： 平成26年2月10日（月）～平成26年2月20日（木）
- 調査方法： 学校・保育園を通じた配布・回収。在宅の就学前児童、幼稚園に通う児童、特別支援学校に通う児童をもつ保護者については郵送による配布・回収

調査票	調査対象者数 (配布数)	回収数	有効回収数	有効回収率
就学前児童	507	366（うち白紙1）	365	72.0%
小学生児童	611	533（うち白紙2）	531	86.9%
合計	1,118	899	896	80.1%

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

Ⅱ 調査結果

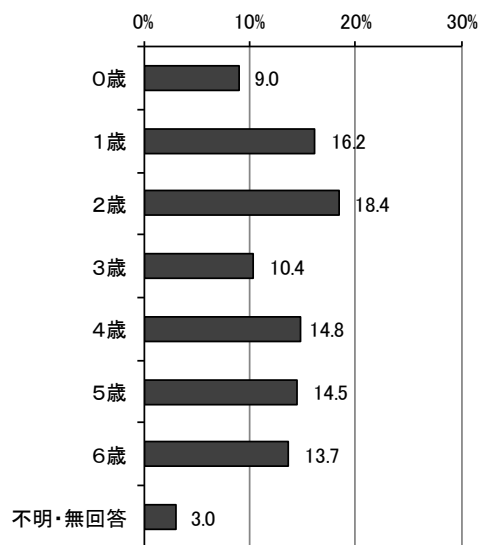
1 お子さんご家族の状況について

(1) 子どもの年齢と学年

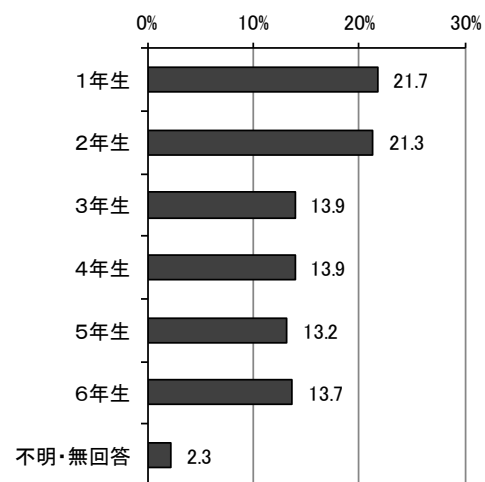
年齢についてみると、2歳が18.4%、1歳が16.2%、4歳が14.8%となっています。

学年についてみると、1年生が21.7%、2年生が21.3%、3年生、4年生が13.9%となっています。

就学前児童(N=365)



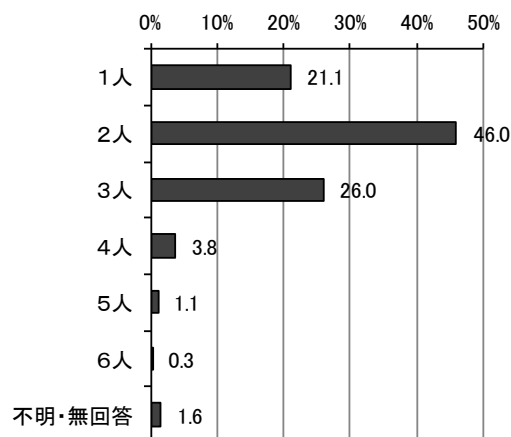
小学生児童(N=531)



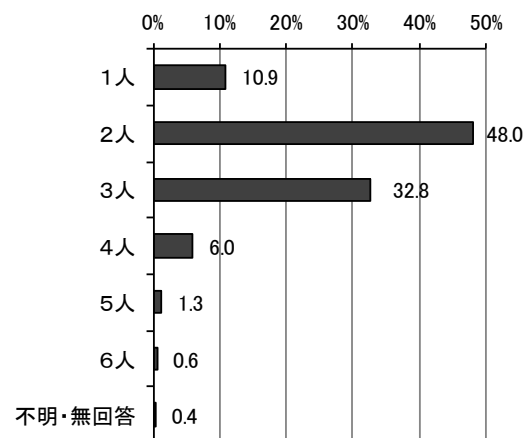
(2) 子どもの人数

「2人」が就学前児童で46.0%、小学生児童で48.0%と最も高く、次いで、「3人」が就学前児童で26.0%、小学生児童で32.8%となっています。

就学前児童(N=365)

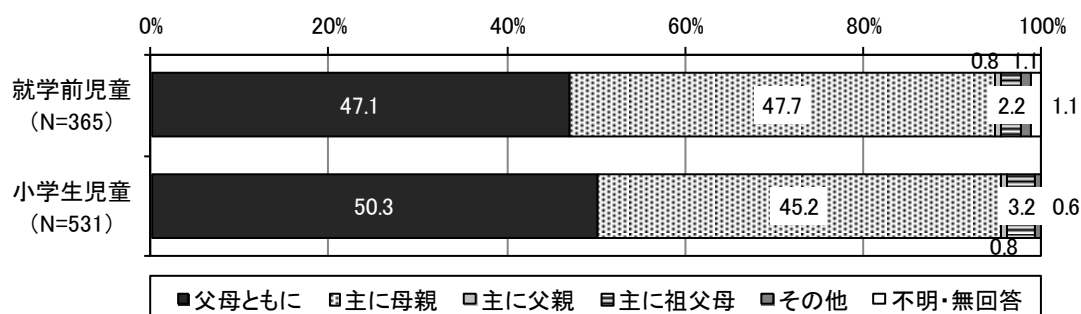


小学生児童(N=531)



(3) 子育てを主に行っている方

就学前児童では「主に母親」が 47.7%と最も高く、次いで「父母ともに」が 47.1%となっています。一方、小学生児童では「父母ともに」が 50.3%と最も高く、次いで「主に母親」が 45.2%となっています。

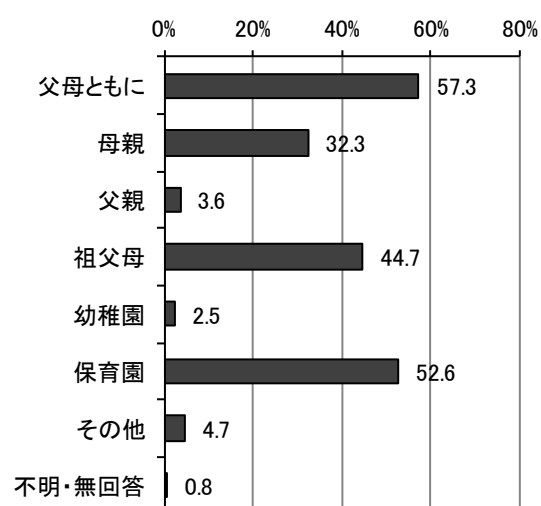


2 子どもの育ちをめぐる環境について

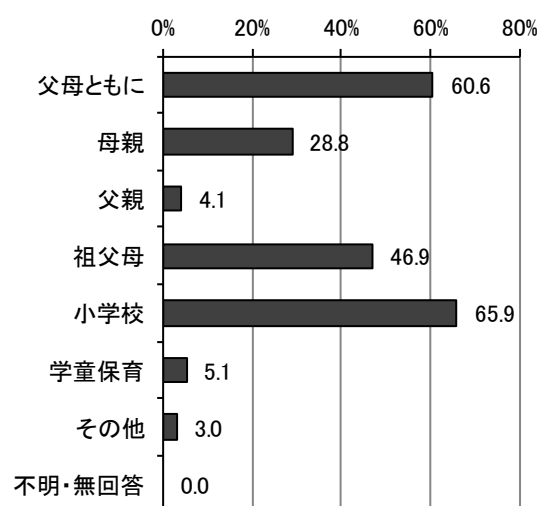
(1) 子育てに日常的に関わっている方（施設）

就学前児童では「父母ともに」が 57.3%と最も高く、次いで「保育園」が 52.6%となっています。一方、小学生児童では「小学校」が 65.9%と最も高く、次いで「父母ともに」が 60.6%となっています。

就学前児童 (N=365)



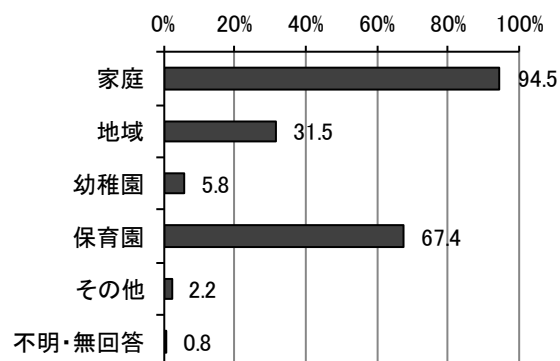
小学生児童 (N=531)



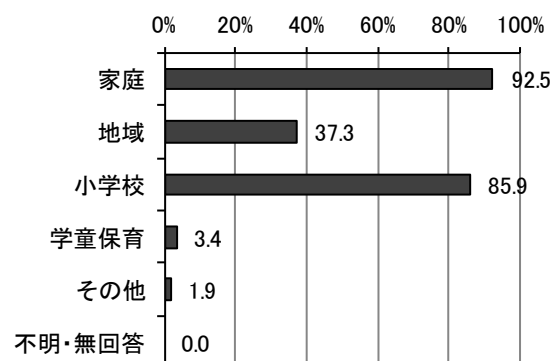
(2) 子育てや教育に影響すると思われる環境

「家庭」が就学前児童で 94.5%、小学生児童で 92.5%と最も高くなっています。次いで、就学前児童では「保育園」が67.4%、小学生児童では「小学校」が85.9%となっています。

就学前児童 (N=365)

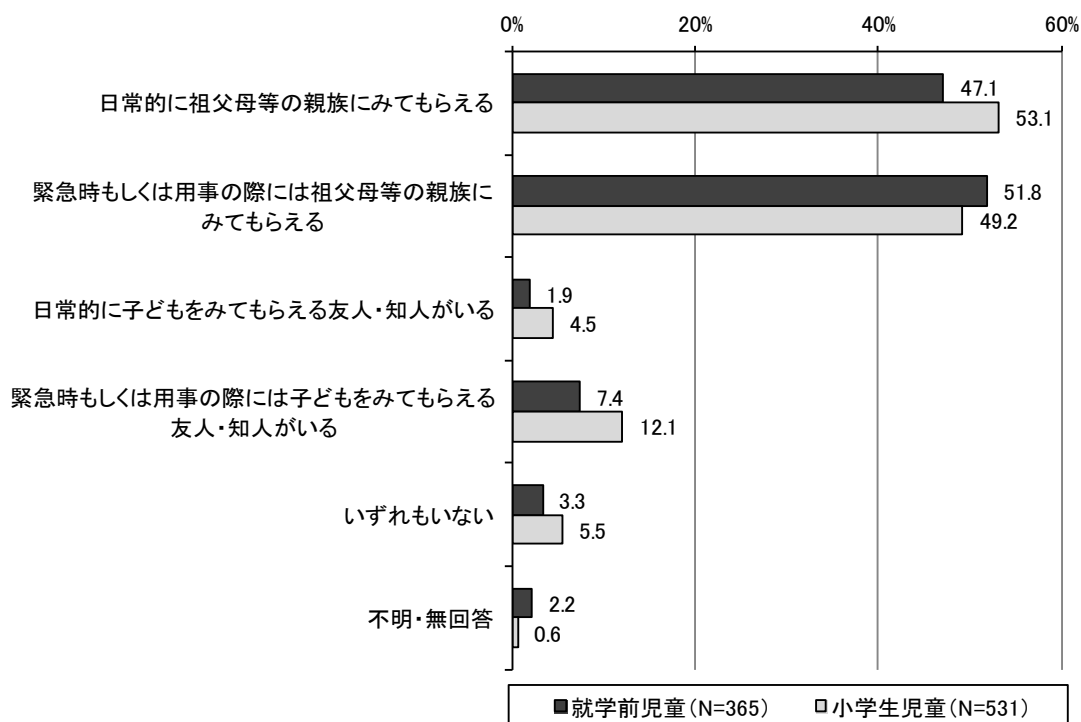


小学生児童 (N=531)



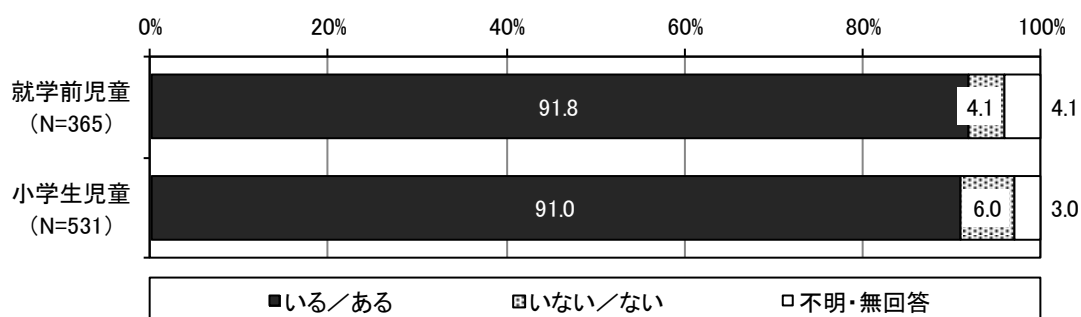
(3) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無

就学前児童では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 51.8%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 47.1%となっています。一方、小学生児童では「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 53.1%と最も高く、次いで、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 49.2%となっています。



(4) 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無

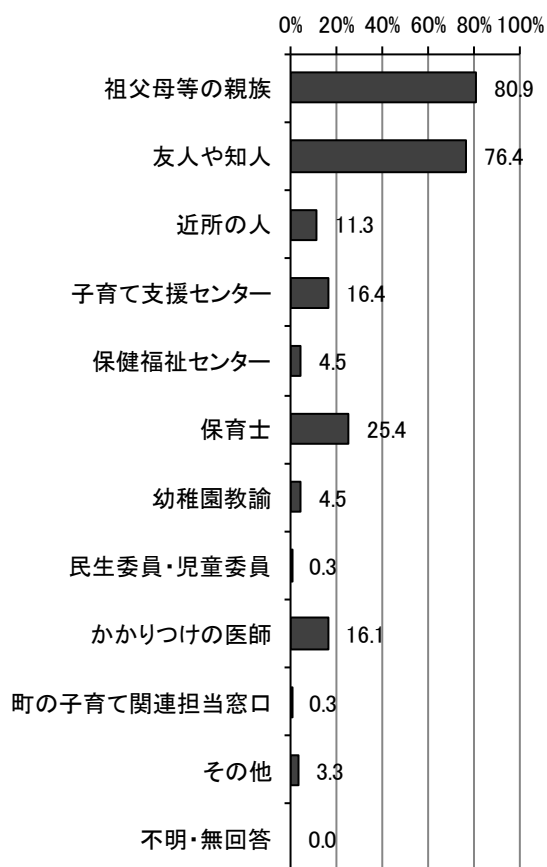
子育てをする上での相談相手(場所)の有無についてみると、「いる／ある」が就学前児童で91.8%、小学生児童で91.0%となっています。



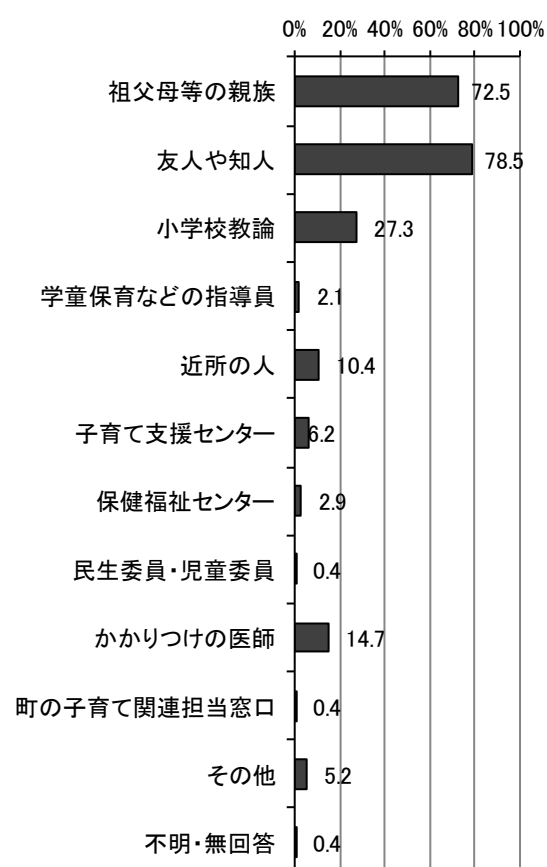
(5) 気軽に相談できる先

就学前児童では「祖父母等の親族」が80.9%、小学生児童では「友人や知人」が78.5%と最も高くなっています。次いで、就学前児童では「友人や知人」が76.4%、小学生児童では「祖父母等の親族」が72.5%となっています。

就学前児童 (N=365)



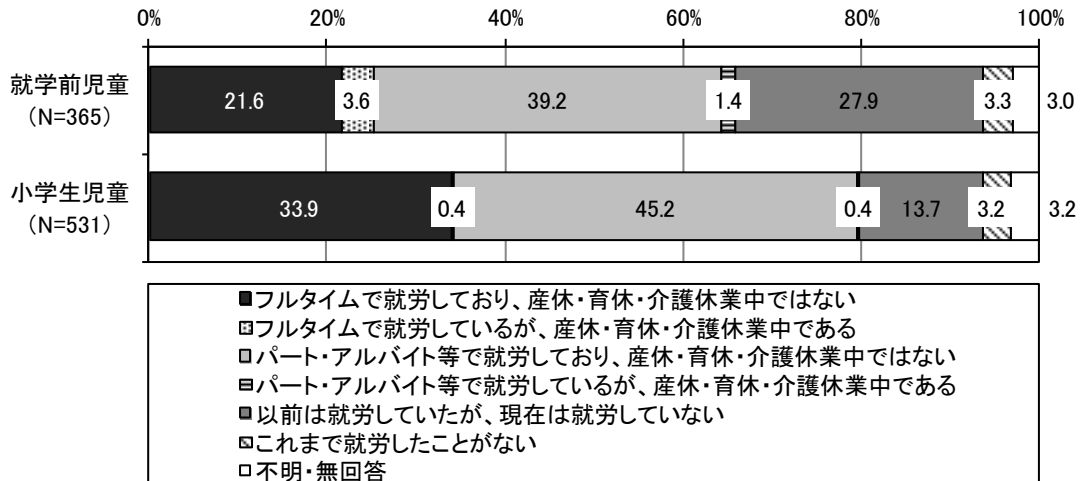
小学生児童 (N=531)



3 保護者の就労状況について

(1) 母親の就労状況

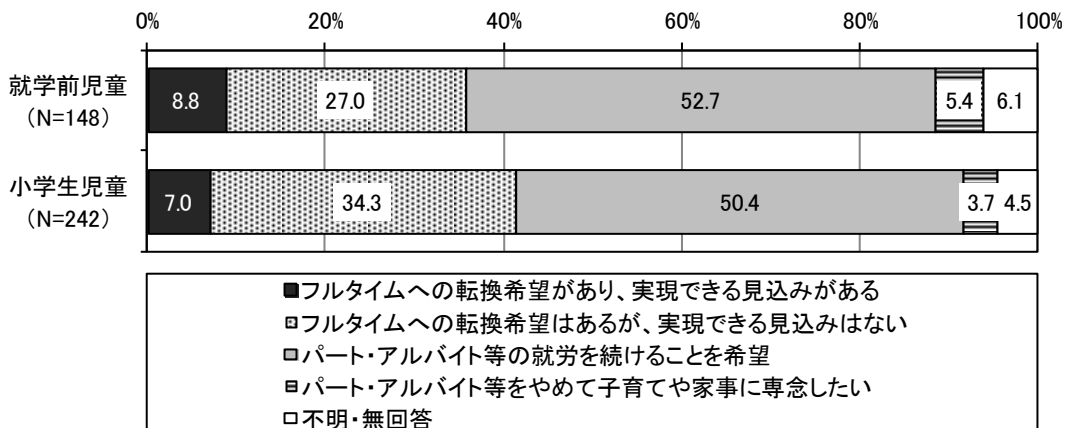
「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が就学前児童で 39.2%、小学生児童で 45.2%と最も高くなっています。



* 「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労
「パート・アルバイト等」：フルタイム以外の就労

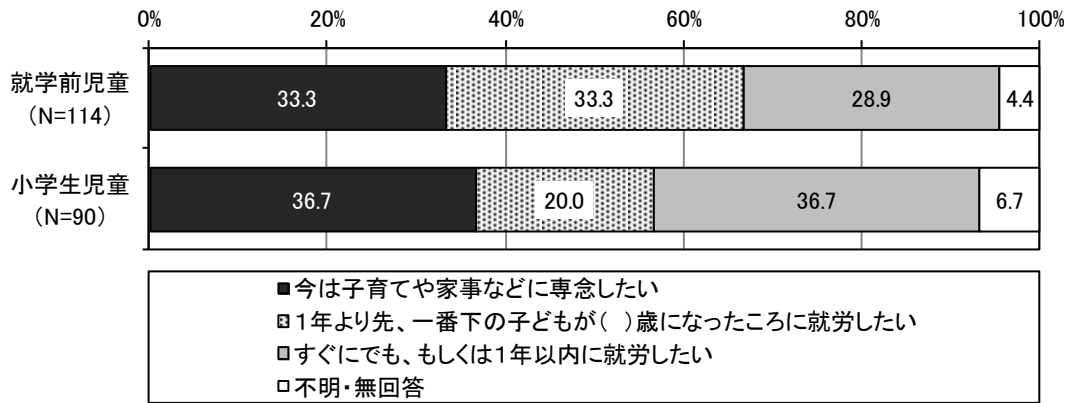
(2) パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望

「パートタイム・アルバイト等の就労を続けることを希望」が就学前児童で 52.7%、小学生児童で 50.4%と最も高くなっています。



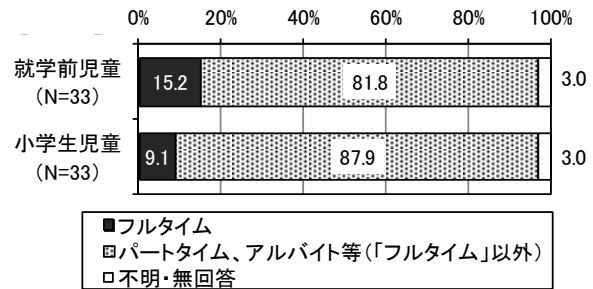
(3) 現在、就労していない母親の就労希望

就学前児童で「今は子育てや家事などに専念したい」「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」が33.3%と最も高く、小学生児童では「今は子育てや家事などに専念したい」「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が36.7%と最も高くなっています。



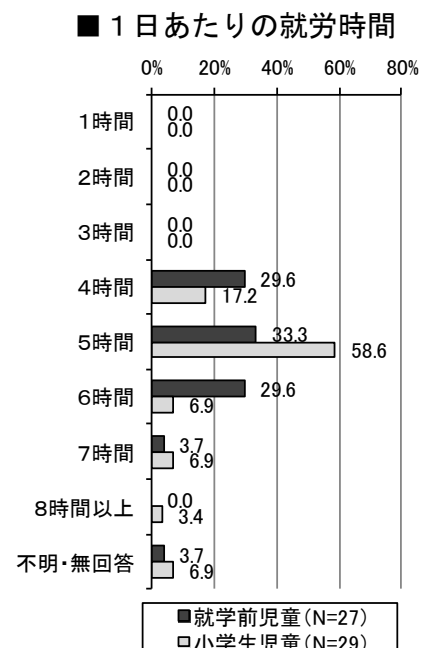
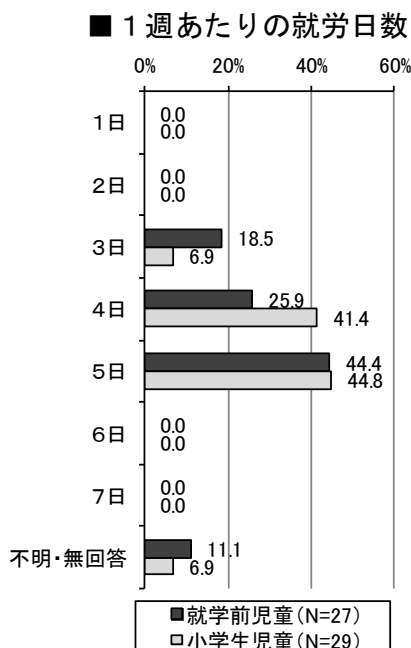
① すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい母親の希望する就労形態

「パートタイム、アルバイト等(「フルタイム」以外)」が就学前児童で81.8%、小学生児童で87.9%と最も高くなっています。



② パートタイム、アルバイト等に就労したい母親の希望する就労形態

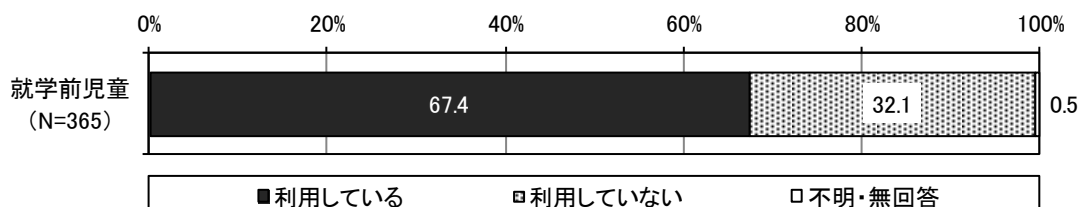
1週あたりの就労日数については、就学前児童、小学生児童ともに「5日」の割合が最も高くなっています。1日あたりの就労時間では、就学前児童、小学生児童ともに「5時間」の割合が最も高くなっています。



4 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）

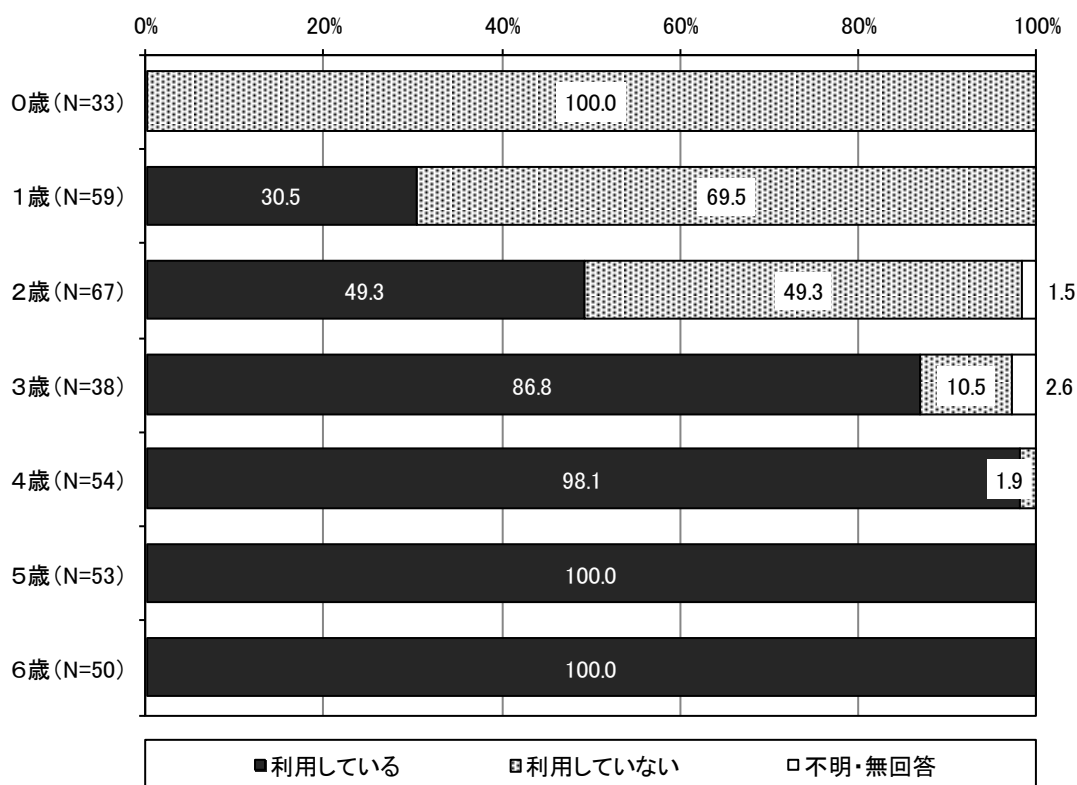
（1）現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無

「利用している」が67.4%と最も高くなっています。年齢別にみると、[3歳]以上で「利用している」割合が8割を超えています。また、[2歳]で「利用している」と「利用していない」割合が同率となっており、年齢が上がるにつれて「利用している」割合が高くなっています。



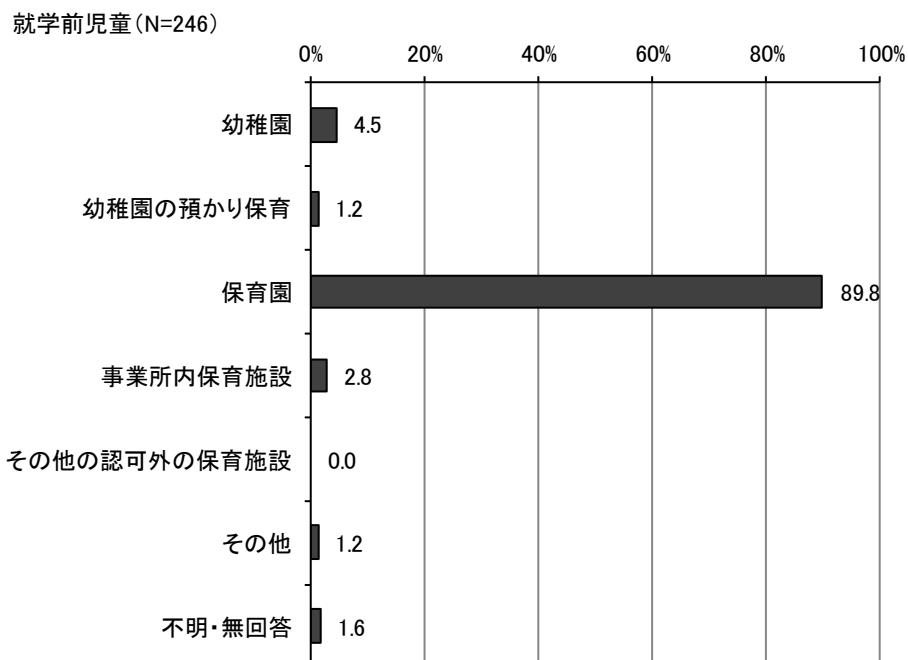
*ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指す。
具体的には、幼稚園や保育所などが含まれる。

【年齢別】



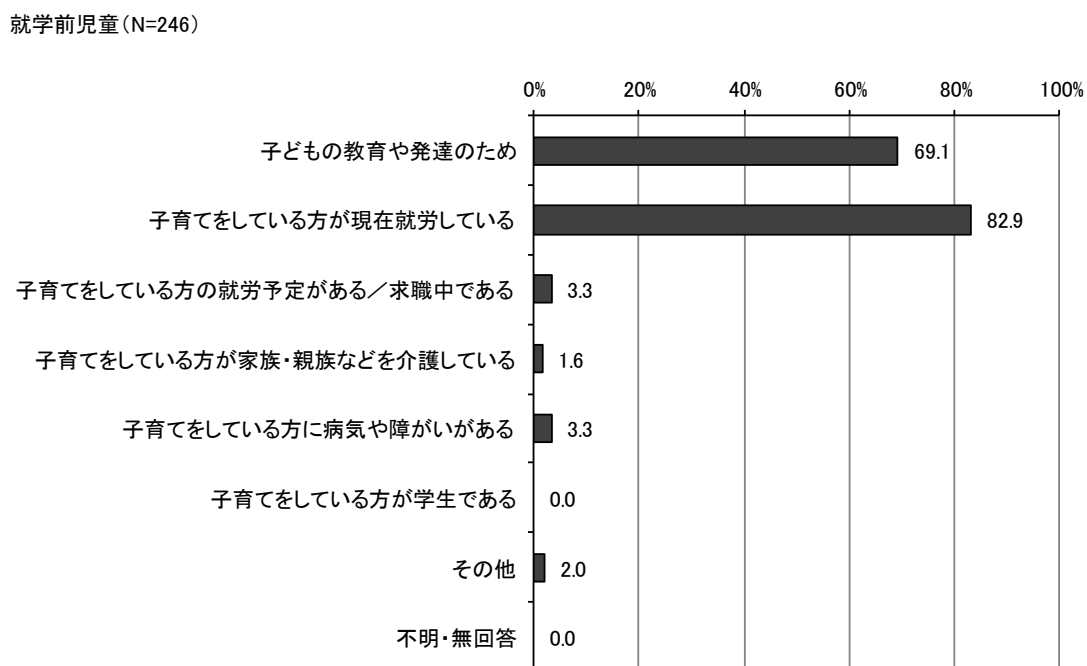
(2) 平日に利用している教育・保育事業

「保育園」が89.8%と最も高く、次いで「幼稚園」が4.5%、「事業所内保育施設」が2.8%となっています。



(3) 平日、教育・保育事業を利用している主な理由

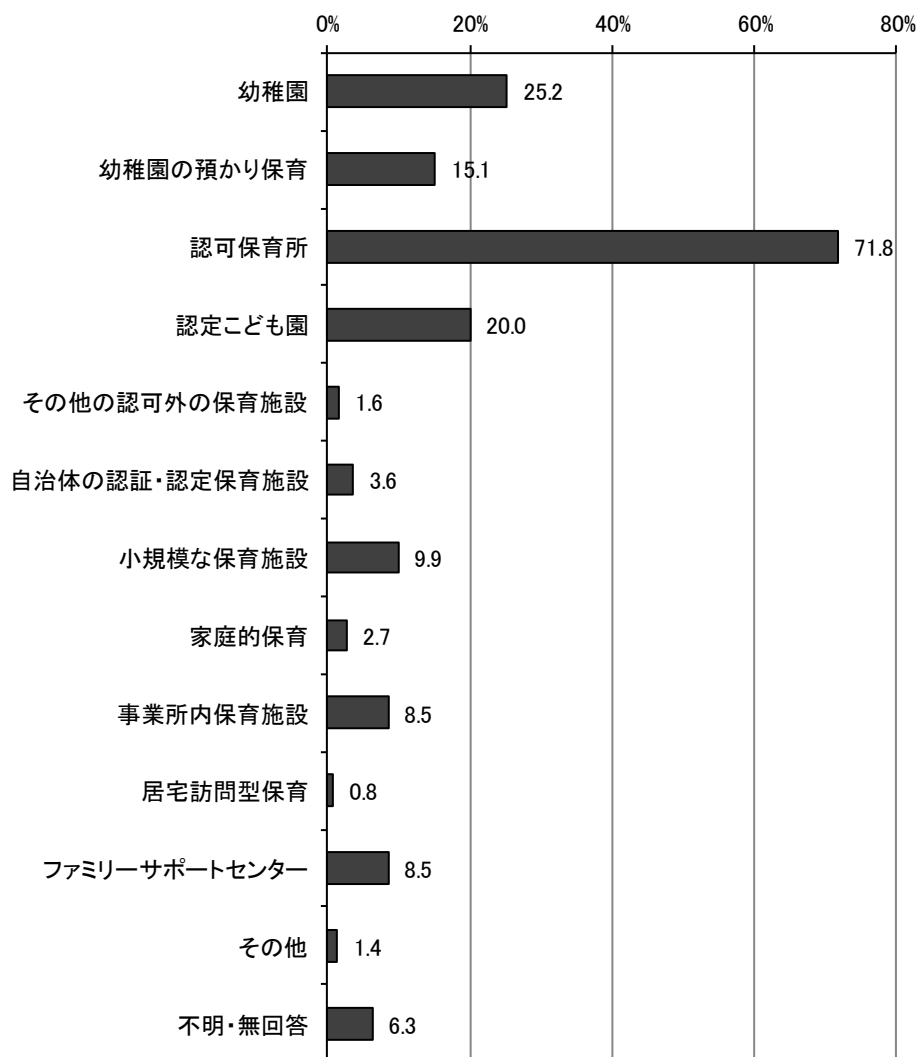
「子育てをしている方が現在就労している」が82.9%で最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が69.1%となっています。



(4) 現在の利用の有無にかかわらず、今後、平日の教育・保育事業として「定期的に」 利用したいと考える事業

「認可保育所」が71.8%と最も高く、次いで「幼稚園」が25.2%、「認定こども園」が20.0%となっています。

就学前児童(N=365)

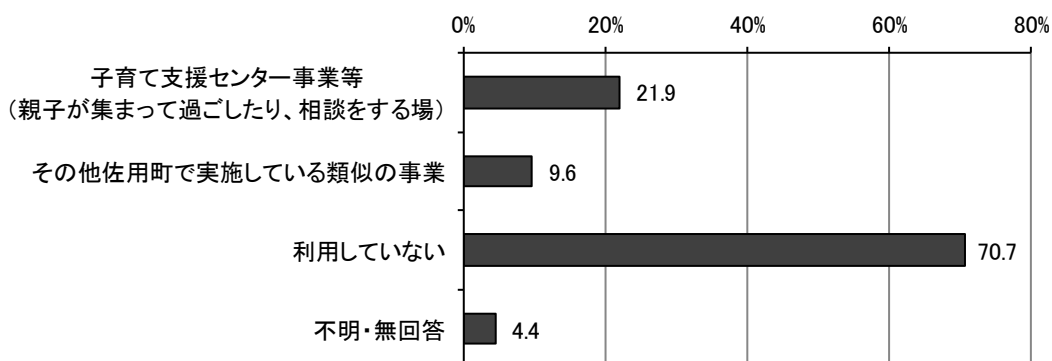


5 地域の子育て支援事業の利用状況について

(1) 現在の子育て支援拠点事業等の利用状況

「子育て支援センター事業等（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」が21.9%、「その他佐用町で実施している類似の事業」が9.6%となっています。一方、「利用していない」は70.7%となっています。

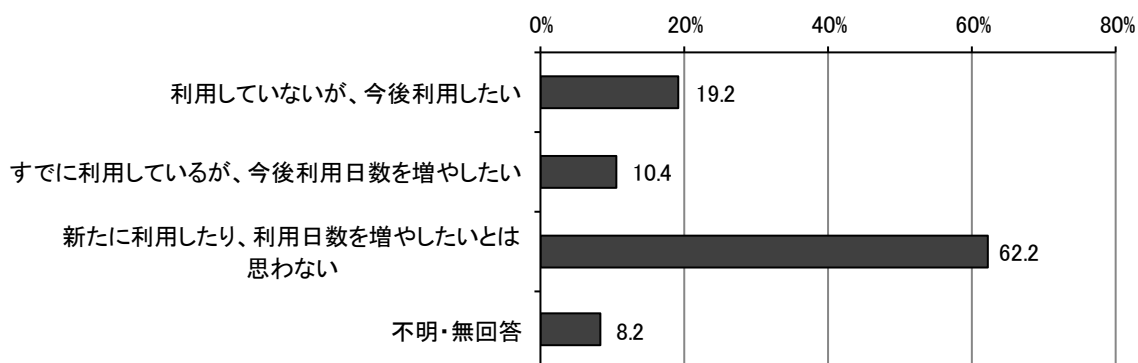
就学前児童(N=365)



(2) 子育て支援拠点事業等の今後の利用意向

「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が62.2%と最も高くなっています。

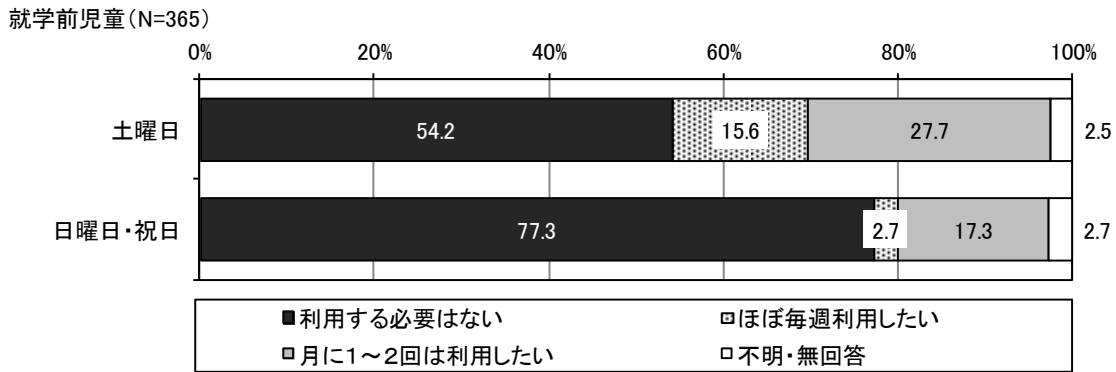
就学前児童(N=365)



6 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童）

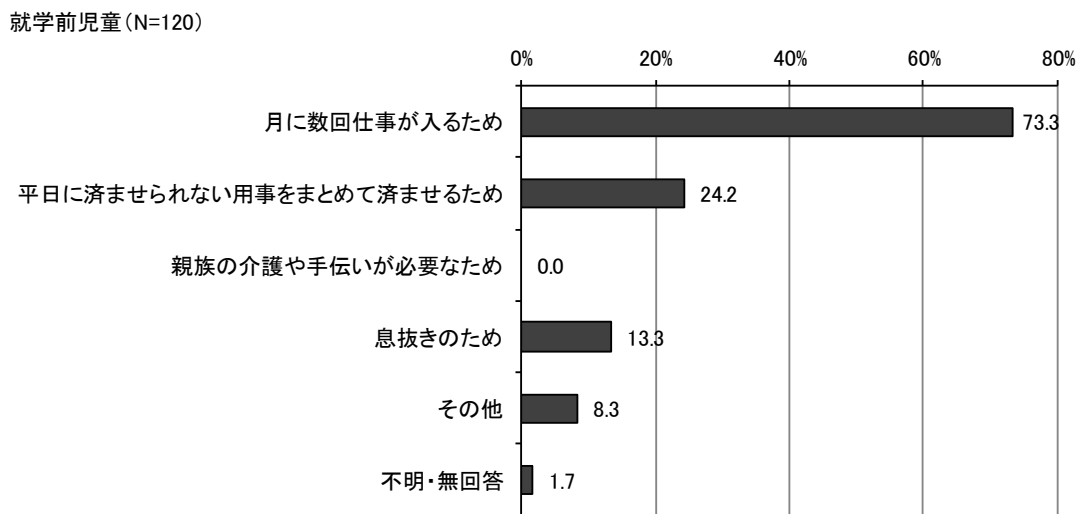
（1）土曜日と日曜日・祝日の、定期的な教育・保育事業の利用希望（一時的な利用は除く）

土曜日、日曜日・祝日ともに「利用する必要はない」がそれぞれ54.2%、77.3%と最も高く、特に日曜日・祝日では8割近くになっています。



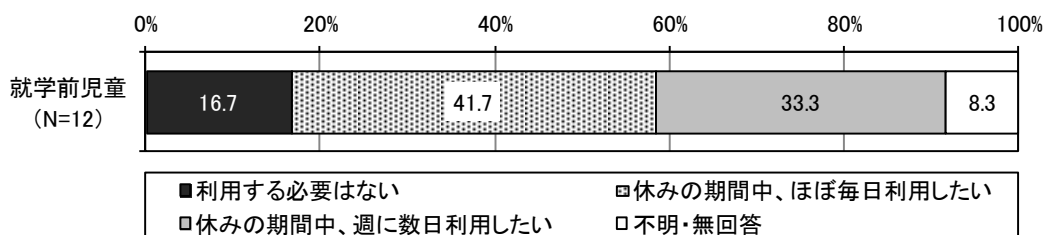
（2）月に1~2回は利用したい理由

「月に数回仕事が入るため」が73.3%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が24.2%となっています。



（3）幼稚園利用者の夏休み・冬休みなど長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望

「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が41.7%と最も高く、次いで「休みの期間中、週に数日利用したい」が33.3%となっています。



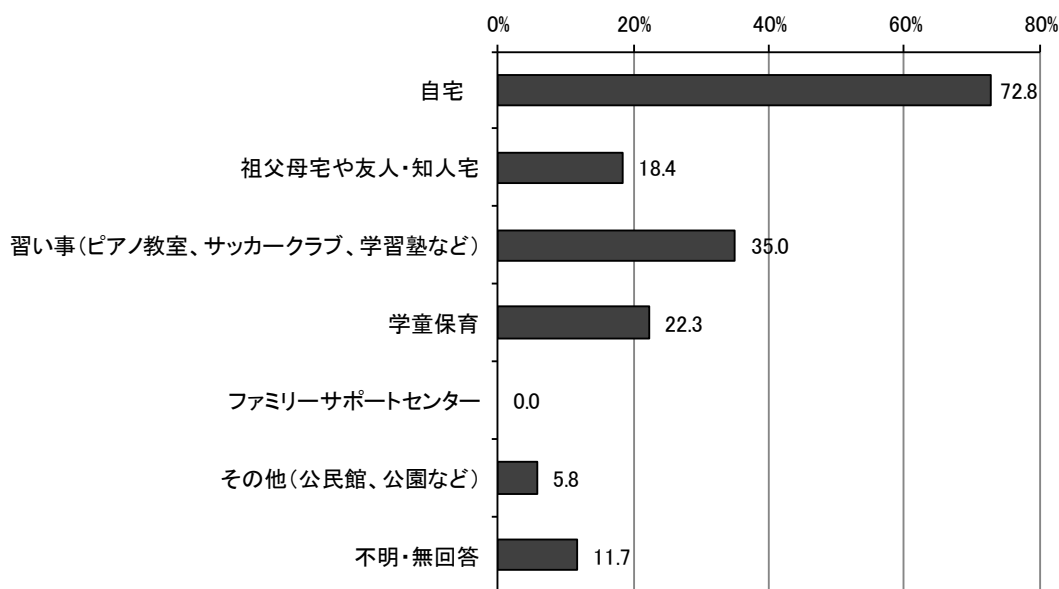
7 小学校就学後の放課後の過ごし方について（就学前児童）

（お子さんの年齢が5歳以上の方のみ）

（1）小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間を主にどのような場所で過ごさせたいと思うか

「自宅」が72.8%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が35.0%となっています。

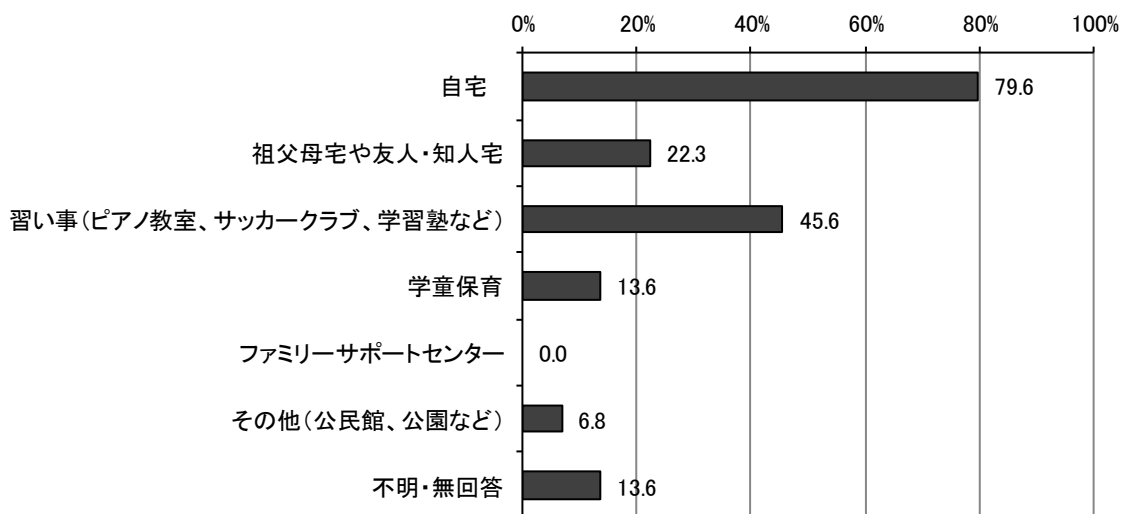
就学前児童(N=103)



（2）小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を主にどのような場所で過ごさせたいと思うか

「自宅」が79.6%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が45.6%となっています。

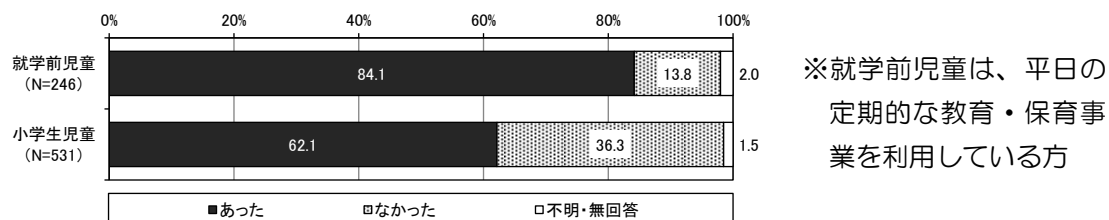
就学前児童(N=103)



8 病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）

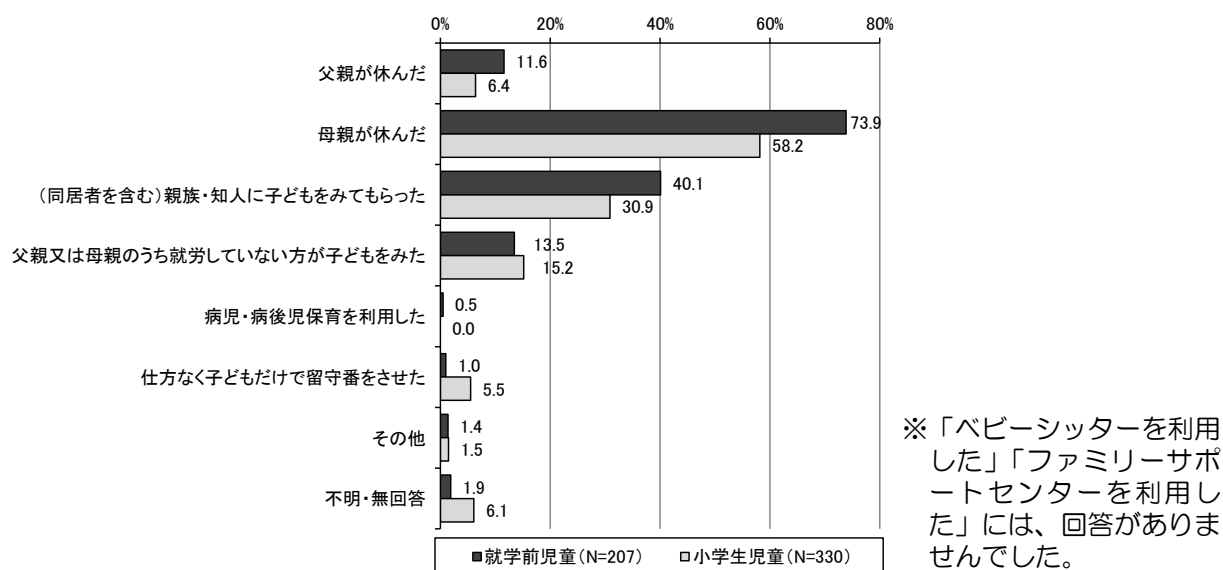
（1）この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった（小学生は学校を休まなければならなかった）ことの有無

「あった」が就学前児童で84.1%、小学生児童で62.1%となっています。



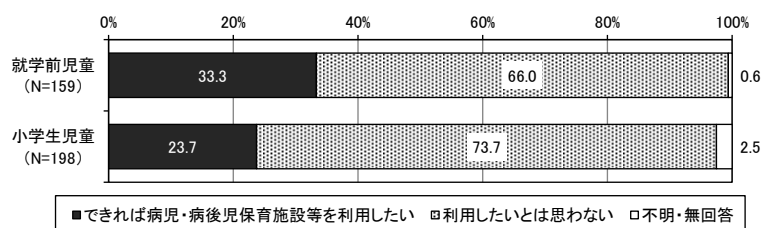
（2）子どもが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった（小学生は学校を休まなければならなかった）場合の、この1年間に行った対処方法

「母親が休んだ」が就学前児童で73.9%、小学生児童で58.2%と、それぞれ最も高く、次いで、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が就学前児童で40.1%、小学生児童で30.9%となっています。



（3）「父親が休んだ」または「母親が休んだ」際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったか

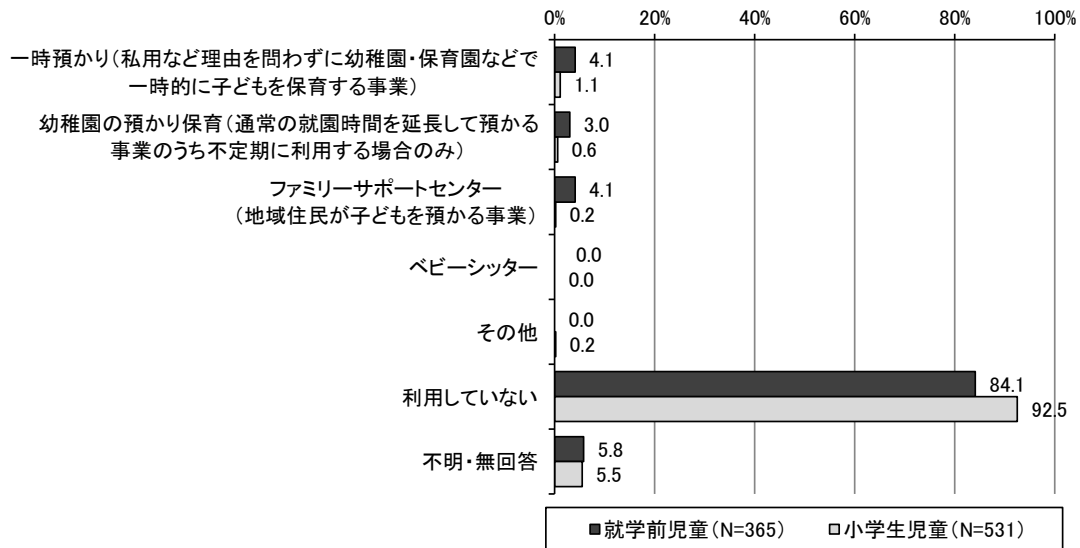
「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が就学前児童で33.3%、小学生児童で23.7%、「利用したいとは思わない」が就学前児童で66.0%、小学生児童で73.7%となっています。



9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用について

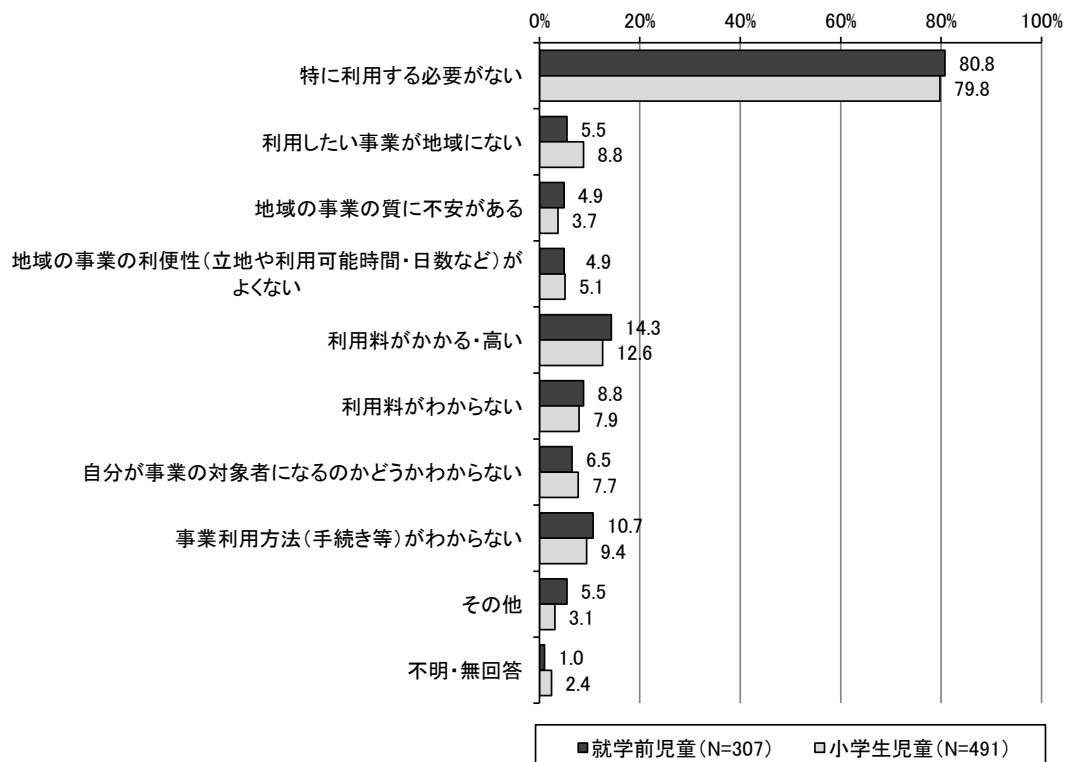
(1) 日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用する必要がある事業の有無

「利用していない」が就学前児童で84.1%、小学生児童で92.5%となっています。



(2) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどを現在利用していない理由

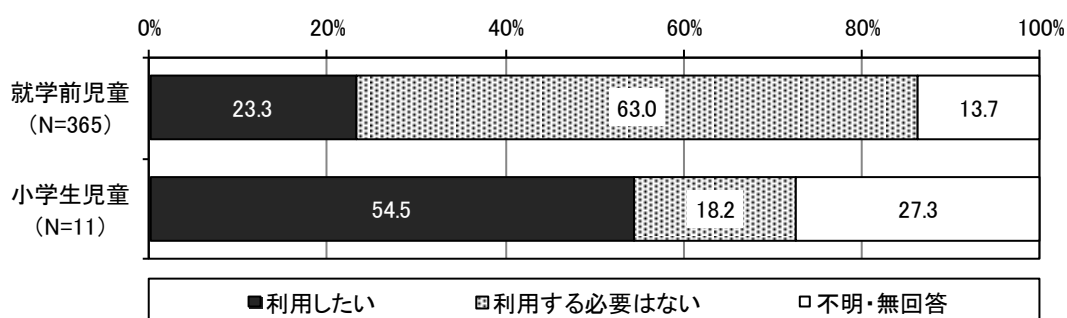
「特に利用する必要がない」が就学前児童で80.8%、小学生児童で79.8%と、それぞれ最も高くなっています。



(3) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、利用する必要がある事業の有無

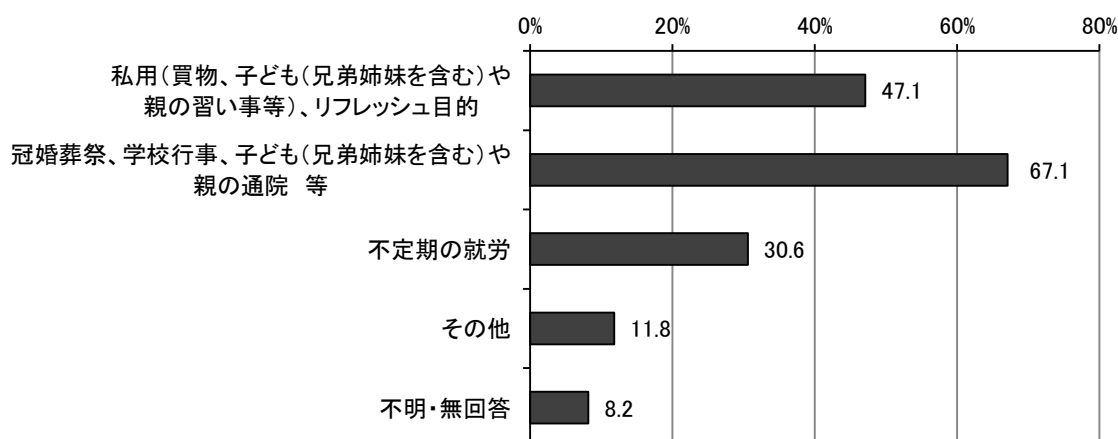
「利用したい」が就学前児童で23.3%、小学生児童で54.5%、「利用する必要はない」が就学前児童で63.0%、小学生児童で18.2%となっています。

また、利用したい目的の内訳については、就学前児童で「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が67.1%と最も高く、次いで「私用（買物、子どもや親の習い事等）、リフレッシュ目的」が47.1%となっています。



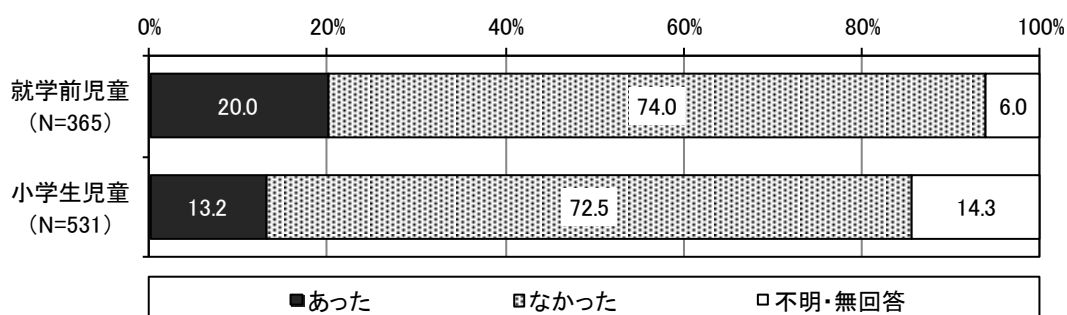
◎利用したい目的の内訳

就学前児童 (N=85)



(4) この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかったことの有無

「あった」が就学前児童で20.0%、小学生児童で13.2%、「なかった」が就学前児童で74.0%、小学生児童で72.5%となっています。

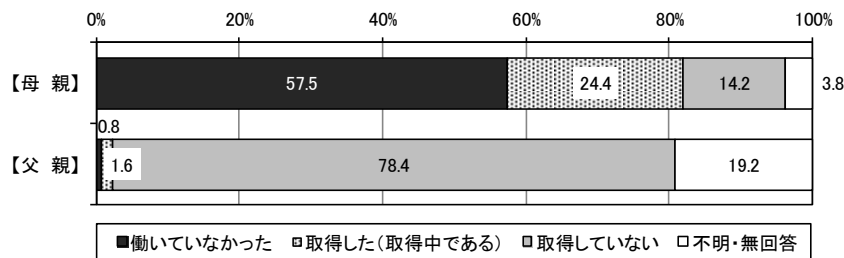


10 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について（就学前児童）

（1）子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況

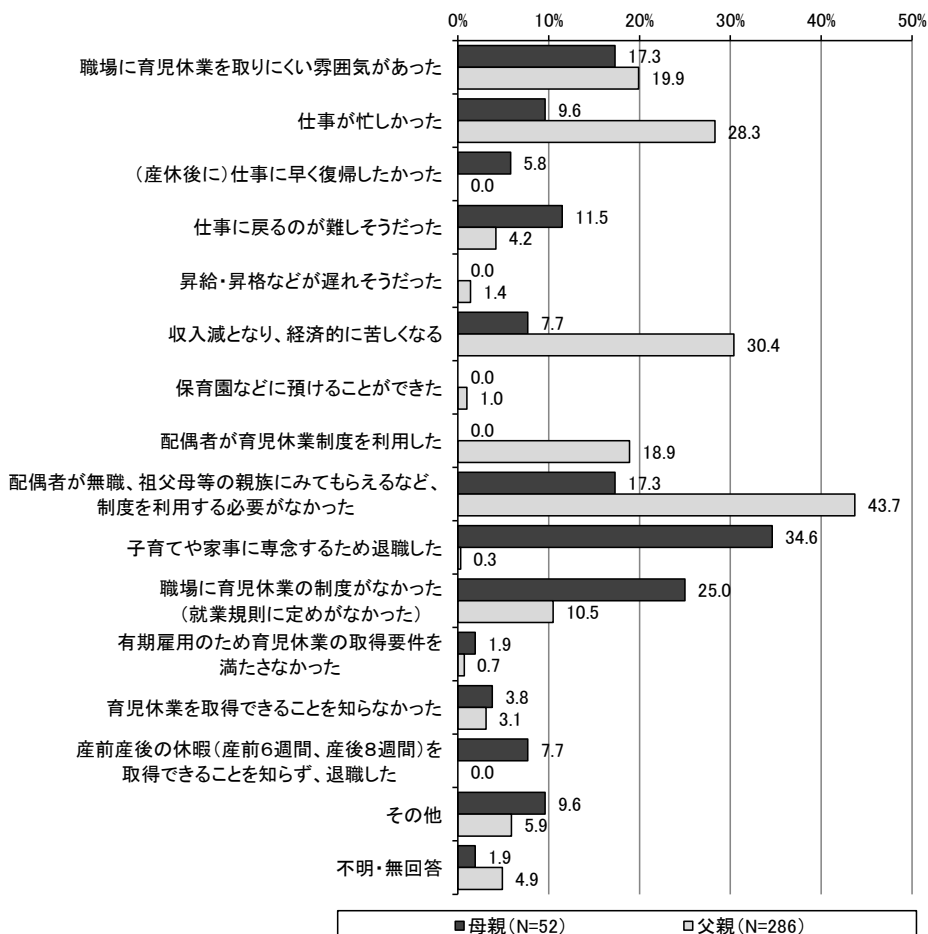
母親では「働いていなかった」が57.5%、父親では「取得していない」が78.4%と、それぞれ最も高くなっています。また、母親の「取得した（取得中である）」が24.4%、父親では1.6%となっています。

就学前児童(N=365)



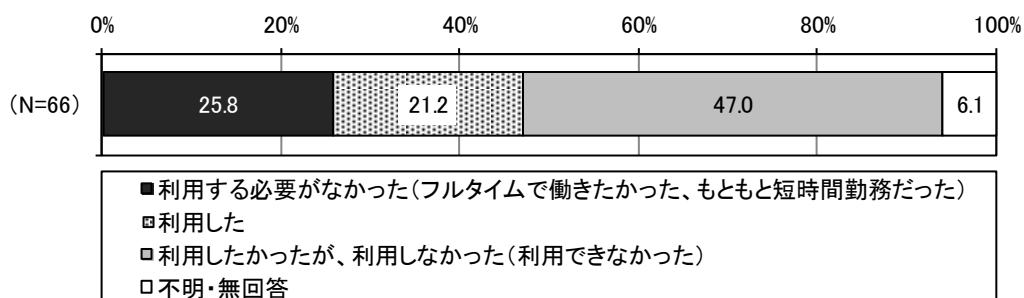
（2）育児休業を取得していない理由

母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が34.6%で最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が25.0%となっています。父親では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が43.7%と最も高く、次いで「収入減となり、経済的に苦しくなる」が30.4%となっています。



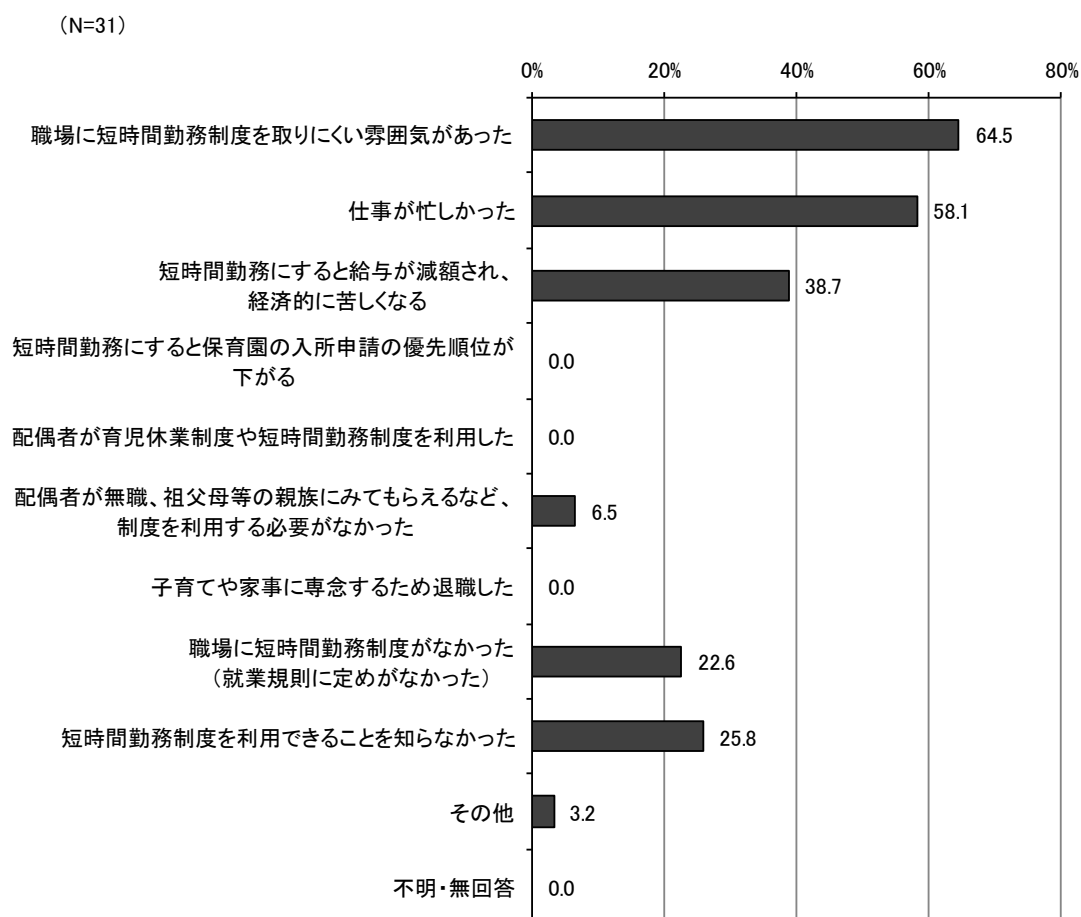
(3) 母親の職場復帰時の短期勤務制度の利用状況

「利用しなかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が47.0%と最も高くなっています。



(4) 母親が短時間勤務制度を利用しなかった理由

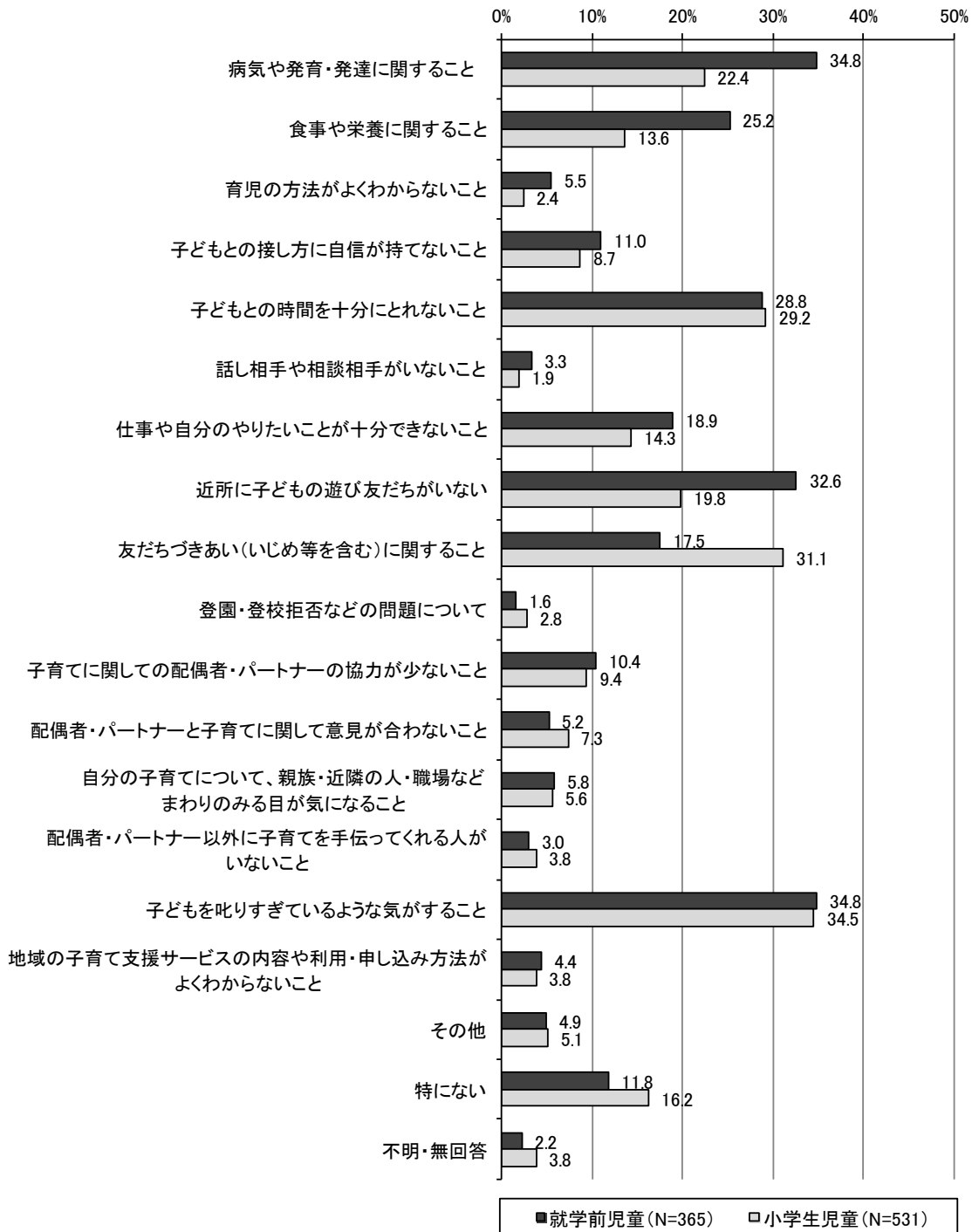
「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が64.5%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」が58.1%となっています。



11 佐用町の子育て全般について

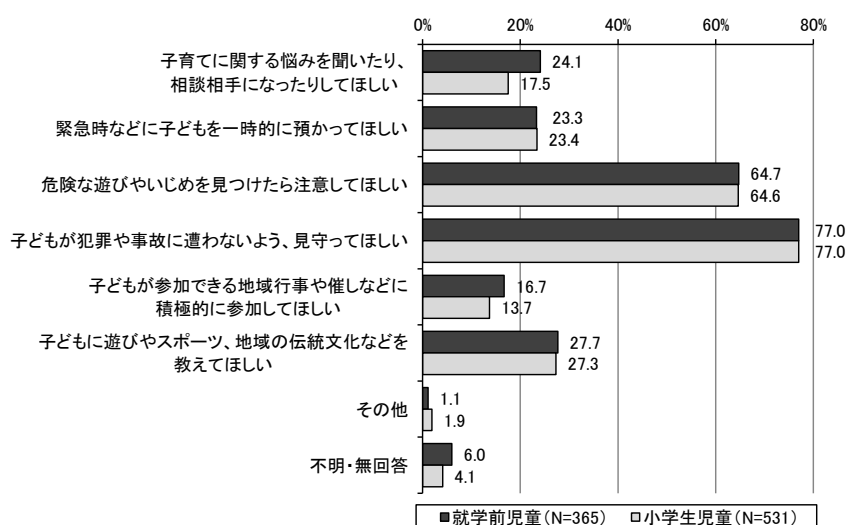
(1) 子育てに関して日頃悩んでいることや気になること

就学前児童では「病気や発育・発達に関すること」「子どもを叱りすぎているような気がする」とが34.8%と最も高く、次いで「近所に子どもの遊び友だちがいない」が32.6%となっています。小学生児童では「子どもを叱りすぎているような気がする」と34.5%と最も高く、次いで「友だちづきあい（いじめ等を含む）に関すること」が31.1%となっています。



(2) 子育て支援として、身近な地域の人との協力や支援にどのようなことを期待するか

「子どもが犯罪や事故に遭わないよう、見守ってほしい」が就学前児童、小学生児童ともに77.0%と最も高く、次いで「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」が就学前児童で64.7%、小学生児童で64.6%となっています。



(3) 子育て支援でもっと力をいれてほしいものは何か

就学前児童、小学生児童ともに「子どもだけで安心して遊べる場所づくり」が68.2%、70.1%と最も高く、次いで就学前児童では「公園や歩道の整備をしてほしい」が58.1%、小学生児童では「児童手当の充実」が58.4%となっています。

